



# 狛江市少年少女サッカー連盟

## 競技運営について

### 当日の運営について

- ① 試合準備  
→第1試合の60分前よりグラウンド準備を開始して下さい。  
→第1試合の両チームでグラウンド準備を行って下さい。
- ② 雨天時中止の場合  
メール配信にて※第1試合2時間前(要返信)  
  
代表者会議  
10:00-11:00 狛江市民グラウンドクラブハウス内にて  
→ただし、必要に応じて実施するものとします
- ③ 一部試合決行の場合  
→水取りと設営開始を全チームで行うものとします
- ④ カラーコーン配置  
→外壁に付けるように配置して下さい
- ⑤ 当番チーム  
→試合時程をプリントアウトして来て下さい。  
(プリント枚数)A3×1 A4×5 ※モノクロで構いません。
- ⑥ 試合結果報告  
→最終ゲームのチームはその日の試合結果を掲示板から回収して、事務局までお知らせ下さい。 FAX番号:042-444-4832

### 試合開始時間

- ① 第1試合:8時キックオフ

### 競技方法

- ① リーグ戦及びトーナメント戦
- ② 試合時間は30分の15分ハーフとし、インターバルは5分とする。  
5・6年、決勝トーナメントは40分 20分ハーフとし、インターバルは5分とする。  
トーナメント戦で規定の競技時間内に勝敗が決しない場合はPKによる決着とする。
- ③ 8人制による競技とする。
- ④ コートサイズ  
3・4年 54m×34m を基準とする。  
5・6年 68m×45m を基準とする。
- ⑤ 審判は1人制(4審あり)を採用する。

### 競技規則

大会実施年度の財団法人サッカー協会規則による。  
但し、以下の項目については狛江用として大会規則を定める。

- ① 試合ごとに7名以上の登録でチームを構成する。
- ② 試合途中、怪我などの理由で6人以下となった場合は、その試合は続行するが次の試合は、参考試合とする。
- ③ 交代は自由な交代制。
- ④ 本大会において、退場を命じられた場合、次の1試合に出場できない。  
(それ以降の処置については本大会規律委員会決定)
- ⑤ ベンチに入ることの出来る人数は制限をしない。但し、引率指導者は3名とする。
- ⑥ ベンチに入ることの出来る人数は制限をしない。但し、引率指導者は3名とする。  
\* 引率指導者は2名帯同の事
- ⑦ テクニカルエリアを設置しない、戦術的指示はベンチにおいて立ててその都度ただ1人の引率指導者が伝えることが出来る。指示を与えた後はベンチに着席しなければならない。
- ⑧ 負傷した競技者の程度を確かめるため入場を許される引率指導者の数は1名とする。(状況により審判の指示に従う)
- ⑨ 不戦勝の場合スコアは5-0とする。

### 運営について

- ① チームベンチ  
\* ベンチは、ピッチに向かってトーナメント表の左が左側ベンチ、右が右側ベンチを使用して下さい。リーグ戦では、表の上または番号の若い方が左側。
- ② 試合前のウォーミングアップ会場  
\* 指定された場所で
- ③ 試合中のウォーミングアップ  
\* ベンチ後のスペースをご利用下さい。  
\* ハーフタイムのピッチは次のチームが使用できます。
- ④ ユニフォームについて  
\* 審判の指示に従って下さい。
- ⑤ メンバーチェックについて  
\* 選手は前試合のハーフタイム後に指定場所でチェックを受けること。  
\* 2試合目以降は、キャプテンとゴールキーパーのみでコイントスを実施すること。
- ⑥ 挨拶について  
\* 試合終了後のチームベンチへの挨拶は、今大会では行わない。  
尚、審判へも同様とする。
- ⑦ GKユニフォーム  
GKのユニフォームは、他の競技者と識別できるものとする。  
背番号等は途中で変わっても構わないが、メンバー表に明記しておくこと(警告等を受けた場合の為)。

### その他

- ① 暑熱下においては前後半の中程で飲水タイムを採用いたします。  
熱中症予防の為の状況データで大会本部で決定し実施する

- 場合は、各セクション、チームに伝える。(キックオフ30分前)
- ② 会場関係  
大会当日会場に来る指導者、保護者、選手、関係者に会場使用の注意事項を徹底する。

#### 競技規定付記

##### ルールの基本的な考え方

- : 選手のフェアプレー精神を養う。
- : 審判員を信頼し、判定に対して不平不満を表さない。
- : 指導者や、保護者、応援する大人など、大人のフェアプレー精神を養う。

##### 審判員の運営上の留意点

- : よく動き、良い位置取りを心がけて説得力のある判定を目指す
- : オフサイドの判定については、主審の見解で明確な場合のみ罰し、原則的に「疑わしきは罰せず」の考え方をとる。
- : スローインについては、ファールスローなどの原則を探すのではなく、明らかな場合のみを罰し指導を行う。
- : フェアプレー精神、良いマナーを養う目的から判定に対してや、他人に対しての言動にも注意をはらい、指導していく。